





絹よ、輝け。
人よ、輝け。

優雅に艶めく光沢感。

しつとりと手になじむなめらかさ。

絹は古来より真珠や象牙に並ぶ「極細の宝石」として、時代を超えて世界中の人々に愛されてきました。

西村織物は、二〇二六年で創業百六十五年を迎えました。

博多織最古の織元として、創業以来、

ずっと絹織物の品質向上を追求し続けてまいりました。

どうすれば、もつと、上品な光を放つことができるのか。

どうすれば、もつと、しなやかで丈夫な帯に仕上がるのか。

どうすれば、もつと、身につけた人を幸せにできるのか。

その問いは今、帯の幅を超え、新たな地平へと広がっています。

博多織には、空間を彩り、暮らしを包み、人の心を動かす力がある――

私たちはそう信じて、博多織をアートへ、そして世界へと解き放ちます。

これからも、一本一本の絹糸から、もつと光を引き出すために。

着物を着るすべての人の魅力を、もつと引き出すために。

そして、日本の伝統織物の可能性を、世界の舞台で花開かせるために。

一本一本の絹糸に、万感の思いを込めて。

世界に通じる織屋となるために、精進を続けてまいります。



nendo × 西村織物 テキスタイルパネル | タイ・バンコク

企業ゲストハウス エントランスホール

タイでは、人は生まれた曜日の色と守護仏に守られて生きるという。その祈りに満ちた文化に着想を得て、nendo が描いた 8 種の図象を、西村織物の佐賀錦の技法で織り上げました。帯であれば緯糸に覆われ、決して表には出ない金箔の経糸。しかし本作では、アートパネルという自由を得て、あえてその経糸を浮かせ、光を受け止めるままに委ねました。金箔糸がおだやかに輝き、異国の空間に日本の祈りが重なる。帯づくりの手法から生まれた織物が、海を越えて、人々を迎え入れる光となりました。

COLLABORATION

クリエイターとともに、
博多織をアートへ、
そして世界へ。

共創

西村織物の挑戦。それは、帯づくりという領域にとどまりません。1メートル幅の生地を積極的に開発。その繊細な技と意匠は、世界の一流クリエイターの目に留まり、ラグジュアリーホテルのエントランスを飾る壁装材として、また、迎賓の間を荘厳に彩るアートパネルとして、上質な空間を求めるあらゆるシーンで選ばれています。デザインスタジオ nendo との共創では、佐賀錦の技法が海外の格式ある空間で新たな輝きを放ちました。さらに国内でも、無印良品など、独自の美意識をもつブランドの空間に博多織が息づくプロジェクトが進んでいます。一本の絹糸から生まれる光は、帯を超え、空間を超え、国境を超える。博多織独自の意匠と技術、その財産を存分に活かしながら、日本の織物の伝統を未来に、そして世界に紡いで参ります。

With creators, we bring Hakata-ori into the sphere of art—and out into the world. Nishimura Orimono's pursuit extends beyond obi-making. We develop one-meter fabrics whose refined craftsmanship has drawn the attention of leading creators worldwide, now used in luxury hotels as wall materials and in ceremonial spaces as art panels. Our collaboration with the design studio nendo brought new brilliance to the Saga Nishiki technique in prestigious international settings. In Japan, projects are also underway where Hakata-ori enriches spaces shaped by brands with a distinct aesthetic, including MUJI. The light born from a single silk thread transcends the obi, space, and borders. By embracing the unique artistry and techniques of Hakata-ori, we continue to carry the tradition of Japanese textiles into the future—and into the world.



意匠・織手
松尾 信好

伝統工芸士 意匠部門 (平成9年認定)・製織部門 (平成16年認定)



意匠
一ノ宮 聖四郎

伝統工芸士 意匠部門 (平成21年認定)



整経
瓜戸 幸子

伝統工芸士 整経部門 (令和4年認定)

創造

CREATION

意匠から織りまで、
すべてを自社の手で。
誠実に織りなす、ものづくり。

博多織の製造工程は、実に繊細。織機に仕掛けられた経糸なていとに緯糸よこいとの杼ひが走り、箎おさが打ち込まれる——単純な動きに見えますが、ほんのちよつとした加減で仕上がりが変わってきます。西村織物では、帯づくりのすべてを社内で行っています。図案の創作、意匠化、染色、糸繰り、整経、そして織り——すべての工程をひとつひとつ丁寧につないでいきます。一貫して自社で手がけるからこそ、糸の一本にまで目が行き届き、妥協のない品質が生まれる。それが、博多織最古の織元としての矜持です。

博多帯伝統の意匠はもちろんですが、時代を先取りするデザインも積極的に開発。伝統工芸士の支援とともに、若手の育成も継続しています。

世代を超えて長く愛されていく、そんな織物を提供するのが西村織物の使命。誠実で地道な仕事の積み重ね、これこそが時代を超えるテキスタイルを完成させると信じています。すべての職人の思いをひとつにして、西村織物ならではの品質と新鮮な意匠を、これからも提案していきます。

Design to weaving, every step in our own hands. Craftsmanship built on sincerity.

The production of Hakata-ori is remarkably delicate. The loom's movements—warp threads set in place, the shuttle carrying the weft, the reed striking the cloth—may seem simple, yet even small adjustments change the texture.

At Nishimura Orimono, every stage of obi-making is done in-house. From pattern creation and design to dyeing, winding, warping, and weaving, each step is handled with care. This integrated process lets us oversee every thread and maintain uncompromising quality, a standard we uphold as the oldest Hakata-ori weaving house.

We preserve traditional Hakata-obi motifs while developing designs that look ahead.

Our mission is to create textiles cherished across generations. We believe steady, sincere craftsmanship is what allows a textile to endure. Bringing together the dedication of all our artisans, we will continue offering the distinctive quality and fresh design that define Nishimura Orimono.



ブラタク社公認織元

ブラタク社は明治期にブラジルへ渡った日本人によって設立され、養蚕～製糸～捻糸にいたるまで一貫した生産体制をもつ、世界でも比類なきシルクメーカーです。国際的なラグジュアリーブランドの絹製品に採用されています。西村織物は、そのブラタクシルクを長年にわたり直接取引している、日本でも数少ない公認織元です。

絹

SILK

世界最高品質の生糸が叶える、
絹本来の光沢と手触り

世界最高品質の生糸の産出国は、実はブラジル。西村織物では、ブラジル産の中でもさらに選りすぐりの生糸を使用しています。生糸そのものの持つ美しさを引き出すために。多様な独自の技術で織り上げ、絹本来の光沢と手触りを生み出します。

西村織物の帯、その魅力はさまざま——現代的な意匠の新作を意欲的に取り入れた、佐賀錦や袋帯。軽さときゅつと締まる快感、博多織の快適さが存分に味わえる、八寸帯。独自の織り方を開発し、フォーマルから夏物まで充実している、九寸帯。カラフルで多種多様、どんな浴衣や夏着物にもぐつと映える、半幅帯。古来よりたくさんの男性に愛され、落語界からの信頼も厚い、角帯。独自の技術で開発された着物愛好家たちの新たな定番、紗の伊達締。

そして、絹糸の物語は帯で終わりません。帯づくりの過程で生まれるサンプル生地や絹糸を、捨てるのではなく、新たな命を吹き込む。そんなアップサイクルの思いから生まれたプロダクトライン「ObitO」。最高品質の絹糸がストールやバッグとして生まれ変わり、和装の枠を超えて、日々の暮らしのそばで静かに輝いています。一本の絹糸も無駄にしない。絹を循環させる。その思いが、新しいものづくりの扉を開きました。

The world's finest raw silk brings out the natural sheen and touch of true silk.

The highest-quality raw silk comes from Brazil. Nishimura Orimono selects only the finest Brazilian silk and uses original weaving techniques to bring out its natural luster and smooth texture. This careful selection ensures that the silk's inherent beauty is fully preserved. Our commitment to quality begins with the very first thread.

Our obi offer a wide range of styles. Saga Nishiki and Fukuro-obi feature modern designs. Hassun-obi are light and provide the firm, comfortable fit of Hakata-ori. Kyusun-obi, developed with unique methods, suit both formal and summer wear. Colorful Hanhaba-obi brighten any yukata or summer kimono, while Kaku-obi—long trusted in the Rakugo world—carry deep tradition. Our Sha-datejime has become a new staple for kimono lovers.

Silk continues beyond the obi. Sample fabrics and leftover threads are upcycled into our "ObitO" line, where the finest silk becomes stoles and bags that shine quietly in daily life. By wasting no thread and keeping silk in circulation, we open the way to new craftsmanship.



HISTORY

最古の博多織、その歴史は、
16世紀、糸商から始まりました。



西村家は、戦国時代の武士団・松浦党の西村増にしむらますえもんどうてつ右衛門道徹に始まります。増右衛門は天正15年（1587）博多の町割りに参画。糸商として貿易を始め、豪商・神屋宗湛かみやそうたんとともに博多の町づくりに貢献しました。当時、豊臣秀吉から授かった紋を家紋としています。

文久元年（1861）年、西村儀平ぎへいは織屋に転向、博多区中市小路に博多織屋を構えました。空襲で工場を失う困難もありましたが、最古の博多織としての歴史は、六代目聡一郎へと受け継がれています。

祈りを織り込んだ博多織

人々を魅了してやまない博多織独特のストライプ文様。それは「独鈷どこ・華皿はなざら」という仏教の法具をモチーフとしており、「厄除や疫病退散、繁栄」を象徴しています。鎌倉時代に博多織の原点となる織物を中国・宋から持ち帰った満田弥三みつたやざえもん右衛門が、共に宋へ渡った臨済宗の僧・聖一しょういち国師の助言を受けて考案したとされています。のちに初代福岡藩主・黒田長政が博多織を江戸幕府へ献上したことから、その文様は「献上柄」と呼ばれるようになりました。博多織の献上柄には、人々を災いから守り繁栄へ導くという古来からの祈りが込められているのです。

The history of the oldest Hakata-ori began with a silk merchant in the 16th century.

The Nishimura family originates from Masuemom Dotetsu Nishimura of the Matsuura clan. In 1587, he helped plan Hakata and began trading silk, working with merchant Sōtan Kamiya. The family still uses the crest granted by Toyotomi Hideyoshi.

In 1861, Gihei Nishimura shifted to weaving and founded a Hakata-ori shop in Nakaishiyoji. There were times of hardship, including the loss of our factory in wartime air raids, yet the history of the oldest Hakata-ori continues today under the sixth-generation successor, Sōchirō Nishimura.

Hakata-ori woven in prayerful patterns

Hakata-ori's signature stripes are based on Buddhist ritual implements symbolizing protection and prosperity. Yazaemon Mitsuta, who brought the origins of Hakata-ori from the Song dynasty, is said to have created the design with guidance from monk Shōichi Kokushi.

When Nagamasa Kuroda presented Hakata-ori to the Edo shogunate, the pattern became known as "Kenjō-gara," the tribute pattern, carrying an ancient prayer to guard people from misfortune and lead them to prosperity.



西村織物

創始 天正十五年

nishimura-orimono.jp

